【日中友好交流プログラム 2019】活動報告

土佐さきがけプログラム国際人材育成コース　１年
藤　夢人

１　事前準備

まず初めに、私たち学生派遣団は安徽省・上海を訪問するにあたり、プレゼン発表の準備から取り掛かった。上海で行うプレゼン発表の製作は高知大学生だけで準備を進めた。一方、安徽省でのプレゼンは高知大学、高知県立大学、高知工科大学の学生たちで作成に取り掛かるため、入念な準備が必要となった。

次に、プレゼン準備の過程について概要をまとめる。はじめに、私たち学生はプレゼンのテーマ設定から取り掛かった。高知県国際交流課の方があらかじめ大まかなテーマ決めていたため、円滑にテーマ設定を行うことができた。ここで出たテーマは、各大学の紹介、高知県の概要・特徴、そしてよさこいについてであった。次に、どのようなプレゼン内容にするのかを決めるために、それぞれの大学が意見を出し合った。その後、どの大学がどのテーマについて発表するかが決定し、三大学各々のプレゼン準備を進めた。高知大学はよさこいについての発表を担当した。私は前期によさこいについてのプレゼンをアメリカ人留学生に説明した経験があったので、以前使用したプレゼンを少し改良し、安徽省での交流で再び使うことにした。事前準備では、よさこい正調の踊り方を確認し、高知県のサイトからよさこい正調の踊り方を調べ、どのようにしたら安徽省の学生によさこい正調をわかりやすく説明できるか試行錯誤した。

上海で発表するプレゼンは高知大学の学生のみで行い、一人一人が土佐さきがけプログラム国際人材育成コースの特徴を紹介するというものだ。私は中国に関心があったため、高知大学で開講されている中国語の授業、そして高知県と中国人留学生とのかかわりについて発表することにした。プレゼンを作成するにあたり、私は中日大学生交流運動会に参加し、高知県が中国人留学生を交えてどのような行事を行っているのかを知ることができた。

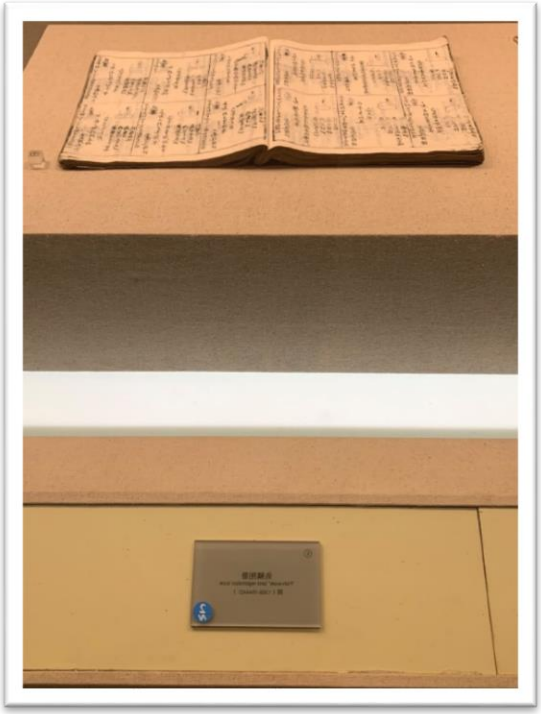
続いて、高知大学で開かれた安徽省からの大学生受け入れ行事のために、私たち高知大学生は一人一つプレゼンを作成した。全体の内容は、日本の大学生が日々どのような生活を送っているのかということである。私自身のプレゼン内容は、「My daily life」
と題し、私が一日をどのように過ごしているかというものである。このプレゼン製作を通して考えたことは、中国人の学生にプレゼンをより理解してもらうために、どのようにしたら

プレゼンが伝わりやすくなるのか試行錯誤したことである。私は動画を作り、可視化することでより理解しやすいと考えた。

【考察】

安徽省でのプレゼン作成前に、私は中国語での発表を推薦したのだが、明らかに中国語での説明は難しいと判断されたため、私の案は通らなかった。今になって考えてみると、自分自身も中国語でのプレゼン発表は不可能だったと考えているため、この意見については反省すべき点だと考えている。また、プレゼンで使用する動画が練習のときになかなかうまく作動しなかったことも反省点だ。私たちが工夫した点は、よさこいのプレゼンを安徽大学生により面白く伝えるために、少しながらクイズやジョークを交えたことだ。また、受け入れ行事のプレゼンで、自分で動画を作り、安徽省からの訪問団にプレゼンをより理解しやすいように工夫した。疑問に感じた点は、一人で三大学を説明するのではなく、各大学の学生が所属している大学について説明するほうが安徽大学生に高知の大学それぞれの良さを伝えることができたのではないかと思った。

２　安徽省での活動

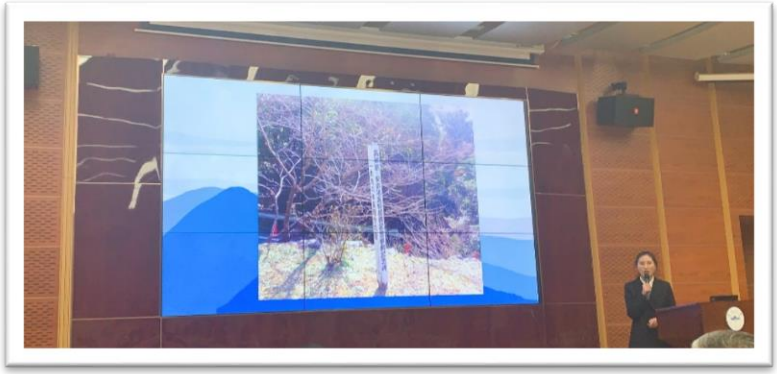


本稿では、安徽省での活動についてまとめる。まず初めに、１１月２１日午前中、私たち訪問団は安徽省博物館を視察した。安徽省博物館は中国の安徽省にある自然・歴史・社会教育の省級総合博物館である。建物内には様々な歴史的展示があり、青銅器や金銀器などが例に挙げられる。私が展示物を見る中で一番印象的だったものは、展示品の中にあった「魚鱗図冊」である。なぜ私がこの展示物に感銘を受けたかというと、高校時代、私は世界史を履修し、中国史の項目で「魚鱗図冊」を勉強したからだ。教科書に載っていたものが目の前にあったため、それを見た瞬間には心から驚き、感銘を受けた。そのほかにも、教科書に出てきた蟻鼻銭や康熙帝などの名前があったため、視察を楽しむことができた。

続いて、午後から安徽省人民政府表敬訪問を行い、

昼食会に参加した。ここでの思い出は、隣に座っていた女性が英語を話せたため、中国のことや日本のことについて英語で会話したことだ。私がここで驚いたことは、中国でも日本のアニメや漫画、さらにドラマや俳優のことを女性が知っていたことである。私は勝手ながら、中国では日本のアニメなどはあまり普及していないのではないかと思っていたが、中国でも日本の文化は流通しているということに驚いた。

昼食会を終え、私たち訪問団は安徽大学を訪れた。安徽大学は広大な土地に建てられており、さまざまな学問を学ぶことができるうえ、安徽省の中では学力、所属人数、学問の質とすべてにおいてトップクラスの大学である。キャンパスツアーにて、ＡＩ（Artificial Intelligence）を用いた本や、声や手の動きに反応して作動するモニターなど、技術の高さに衝撃を受けた。キャンパスツアーを経て、私たちは安徽大学生との交流に移った。安徽大学生のプレゼン発表は全員が日本語で話し、私たちは安徽省や中国の説明を詳しく受けた。中でも驚いたことが、中国の食文化である。発表者の方は「中国のあれこれ」という題で中華料理について説明していた。その中で、中国では犬の肉や蛇の肉、豚の脳まで食べるという文化に私は衝撃を受けた。私が感心したことは、安徽大学生が高知大学を訪問した際の植樹の記念碑写真を見たことだ。彼女は高知に来た際この記念碑を見て、心から感心したそうだ。私も同じようにその写真を見た瞬間に心に突き刺さるものがあった。その時の気持ちは、こうやって高知県と安徽省との関係が過去からずっと続き、これからも続いていくのであろうという希望を抱くような嬉しい気持ちだったことを覚えている。続いて私たち高知の大学生がそれぞれ高知県についてのプレゼンを行った。安徽大学生は高知の学生のプレゼンを熱心に聞き、時に笑ったり高知県の事実に驚いたりもしていた。私たち高知大学生は前述したようによさこいについての発表を行った。少し内容が変更し、よさこいの動画がうまく再生できなかったなどのトラブルもあったが、私自身満足のいくプレゼン発表だったと思う。特に、安徽大学生とよさこい正調を踊るというセクションでは、会場が狭いにも関わらず、安徽大学生の協力のおかげで大きなトラブルもなくよさこい正調を踊れたことが一番の思い出だ。



続いて、安徽大学での交流の後、安徽省主催歓迎レセプションに出席した。夕食会では、大勢の安徽省の方々の前でよさこい正調を踊った。とても広い会場のうえ、大勢の人の前だったため、少し緊張した。次に、１１月２２日の午前中、私たちはアイフライテックの視察を行った。アイフライテックは音声認識において世界トップレベルの高い技術を誇る会社

で、音声認識技術で世界をリードし、名だたる技術コンテストで上位入賞を果たしている。私がこの視察で一番印象に残ったことが同時音声翻訳である。案内人が中国語をパソコンに読み込ませると、即座に英語・日本語に翻訳するという機能のものであった。高い技術の上、私はこの AI を見たときに少し恐怖した。なぜなら、高い知能を誇る AI が普及すると私たち人間が言語を学ぶ意義が不明になるからだ。しかしながら視察を受けるうちに、私たち人間にしかできないこともあるのだろうと考えるいい機会になった。ほかにも、車の運転補助を AI が行ったり、学生の学習進行度を把握するための AI などどれも興味深いものだった。続いて、日立建機中国法人に訪れた。日立建機は日本の日立グループに所属しており、ここではショベルカーの組み立てを行っている。私たちは実際にショベルカーの組み立て現場を視察した。

３　上海での活動

本稿では、上海での活動について概要をまとめる。私たち派遣団は上海で高知県人会の懇談会に参加した。ここでは、実際に中国で働いている高知県出身の方々と食事をした。この食事会で、私は非常に心に残った出来事がある。それは、懇談会に参加していた方からもらったアドバイスである。その内容は、「日々何事にもなぜ、どうしてと考える癖を身に着けることが大事である。なぜなら、その癖を身に着けることで自分が将来どういう人間になりたいかを考えることができるからだ。例えば、紙を持って人前で話している人と、紙を持たずに話している人がいるとしたら、この違いは何なのか。そして、自分はどっちの人間になりたいのかを考えることが大事である。」と。私はこの言葉に心を打たれ、このアドバイスを忘れず、日々何事にも疑問を持って過ごそうと心に誓った。

次の日、１１月２３日は高知大学帰国留学生ネットワーク設立十周年の総会に参加した。この総会は高知大学に留学をしたことがある人が集い、これからも高知県と安徽省との友好関係を続けていこうというものである。私は同窓会に参加していた人数が思っていた以上に多く、こんなにもの多くの中国人が高知大学に留学をした経験があるということに驚

いた。プログラムが進行し、私たち学生は高知大学についてのプレゼンを行った。私は高知大学の中国語授業と、高知県と中国留学生とのかかわりについて発表を行った。私は最後のスライドに高知大学の景観写真を載せたことで、同窓会の参加者が高知大学での留学のことを思い出してくれたのが非常に喜ばしかった。夕食会の終わりごろに、参加していた方々と一緒によさこい正調を踊った。皆で鳴子を持ってよさこいを踊ったことは、いい思い出である。

【考察】

私は上海の同窓会にて反省しなければいけないことが一つある。それは、集合時間に遅刻したことである。これは、社会に出る以前に人としてあるまじき行為だったと深く反省している。

４　高知での受け入れ行事

本稿では、高知での受け入れ行事について概要をまとめる。１１月２７日、私たち高知大学生は安徽省からの学生を迎え入れた。行事内容としては、学生のプレゼン、キャンパスツアー、そして学生同士の交流が主なものだった。キャンパスツアーでは、高知大学の図書館や食堂、生協などを見回った。安徽省からの大学生は高知大学内も楽しんでいたが、それ以上に秋だったため紅葉などの景観を楽しんでいた。続いて、学生のプレゼンでは私たち高知大学生のプレゼンと安徽大学生のプレゼンを行った。私たちは日本の大学生についてのプレゼン

を発表した。私自身は「My daily life」と題してプレゼンを行った。思っていた以上に学生たちの反応が良く、苦労して準備した甲斐があったと思う。安徽大学の学生は、高知県への留学体験についての発表を行っていた。交流会の最後には、土佐さきがけプログラム国際人材育成コースの学生がよさこい正調を踊り、受け入れ行事は終了した。

5　考察・これからについて

本稿では、安徽省・上海での活動の最終考察と、私自身のこれからについて概要をまとめる。はじめに、安徽省・上海での活動は私にとって自身を成長させる機会になったと思う。事前準備では三大学の学生が顔も知らない状態で準備に取り組んだため、初めは混乱したこともあったが、初顔合わせの時にはすっかり打ち解け、中国に行ってからも協力して行事に参加することができた。安徽省・上海の活動での活動では、「大人」と話す機会が普段より格段に増え、様々なアドバイスを受けた。私たち学生は教授と話すことはあっても、働いている大人と話す機会はほとんどなかった。そのため、普段は気づけないようなことも大人からのアドバイスを受けることで、自分が成長するきっかけになったと思う。

続いて、私のこれからについてだが、まず初めに私が日中友好交流プログラムの参加を決めた理由について述べる。私が本プログラムの参加を決めた理由は、将来中国への留学を視野に入れているからだ。土佐さきがけプログラム国際人材育成コースのゴールとして、日本語、英語、中国語を用いてグローバルに活躍する人材を育成すことを掲げている。私自身中国への興味があったため、実際に中国を訪れ、中国への関心を深めたいと考えたうえで本プログラムの参加を決意した。安徽省・上海での活動を通し、私の中国への関心はより一層深まった。なにより、中国語への興味は今まで以上に大きくなった。また、今回のプログラムは私の将来について深く考える機会になったと思う。初めての経験ばかりで戸惑うこともあったが、今となっては困難を乗り越えたことで達成感に満ち溢れている。結果、安徽省・上海への訪問は忘れることのない良い経験になった。最後に、私は土佐さきがけプログラム国際人材育成コースが掲げている「国際社会で活躍できる人材」になることを目標に、これからはより一層勉学に励みたい。以上、私の活動報告書とする。